



問合せ先

杉並区立中央図書館
☎03-3391-5754

第1回

研究者か、小説読みか —プルーストからの問い

平成30年5月26日(土)

14:00→16:00【開場】13:30



〈講師〉 池田 潤

白百合女子大学講師
(文学部フランス語フランス文学科)

〈論文〉 『La culture littéraire dans À la recherche du temps perdu』(博士論文、パリ第4大学)

文学作品を読むという経験と専門的な研究との間にある、否定しがたい隔たりをどう考えるのか。近代批評の祖といわれるサント＝ブーヴとそれに異を唱えたプルーストという枠組みでこの問題について考察する時、小林秀雄が有力な補助線として浮かび上がります。



第2回

明治の人々は 芝居をどう観たか

平成30年6月16日(土)

14:00→16:00【開場】13:30



〈講師〉 日置 貴之

白百合女子大学准教授
(文学部国語国文学科)

〈著書〉 『変貌する時代のなかの歌舞伎 幕末・明治期歌舞伎史』(笠間書院 2016年)

明治時代の人々はどのように歌舞伎を観ていたのでしょうか。江戸時代以来の「役者評判記」の伝統を意識しつつも新たな形式の出版物へと変えていった見巧者たち、より客観的・近代的な劇評のあり方を模索した人々、そしてそうした「文字」を持たない見物たちのそれぞれが、どのような芝居を求め、どのように舞台に向き合ったかを考えます。



場 所 杉並区立中央図書館 地下視聴覚ホール
(荻窪3-40-23)

定 員 60名(当日先着順)

共 催 白百合女子大学言語・文学研究センター

第一回の講座には第二回の日置先生が、第二回の講座には第一回の池田先生が、それぞれ友情出演します。

読む名人・観る名人についてのものなんやかや

新進気鋭の研究者二人が、読むこと、観ることについて、その極意を熱く語ります。